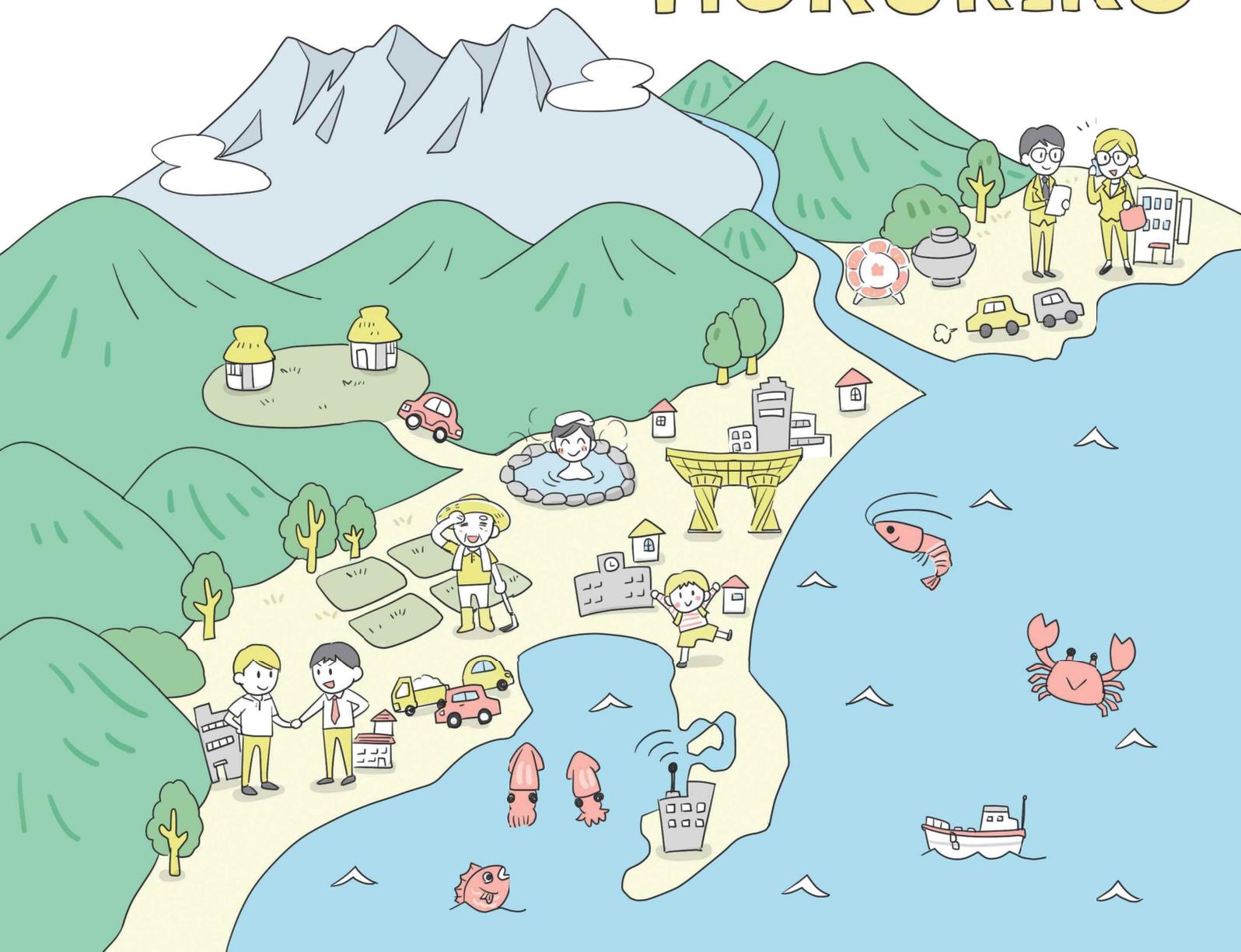

北陸SDGs未来都市フォーラム

開催報告書

HOKURIKU



北陸SDGs未来都市フォーラム

令和3年1月30日 13:00～17:00

オンライン開催

第1部

開会挨拶：金沢市長 山野之義

来賓挨拶：内閣府地方創生推進事務局 参事官 北廣雅之氏

基調講演：株式会社エンパブリック代表取締役 広石拓司氏 P2

北陸のSDGs未来都市の取組報告 P3

第2部

グループディスカッション&トークセッション P8

閉会挨拶：公益社団法人金沢青年会議所理事長 中島雄一郎

※北陸のSDGs未来都市

富山県 環日本海地域をリードする「環境・エネルギー先端県とやま」

富山市 コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現

南砺市 「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化
～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～

金沢市 世界の交流拠点都市金沢の実現 ～市民と来街者が「しあわせ」を共創するまち～

小松市 国際化時代にふるさとを未来へつなぐ「民の力」と「学びの力」 ～PASS THE BATON～

珠洲市 能登の先端”未来都市”への挑戦

加賀市 官民協働のスマートシティによる持続可能なまち

白山市 白山の恵みを次世代へ贈る「白山SDGs未来都市2030ビジョン」

能美市 能美市SDGs未来都市 暮らしやすさ日本一実感できるまちへ

鯖江市 持続可能なめがねのまちさばえ～女性が輝くまち～

(都道府県コード及び市区町村コード順)

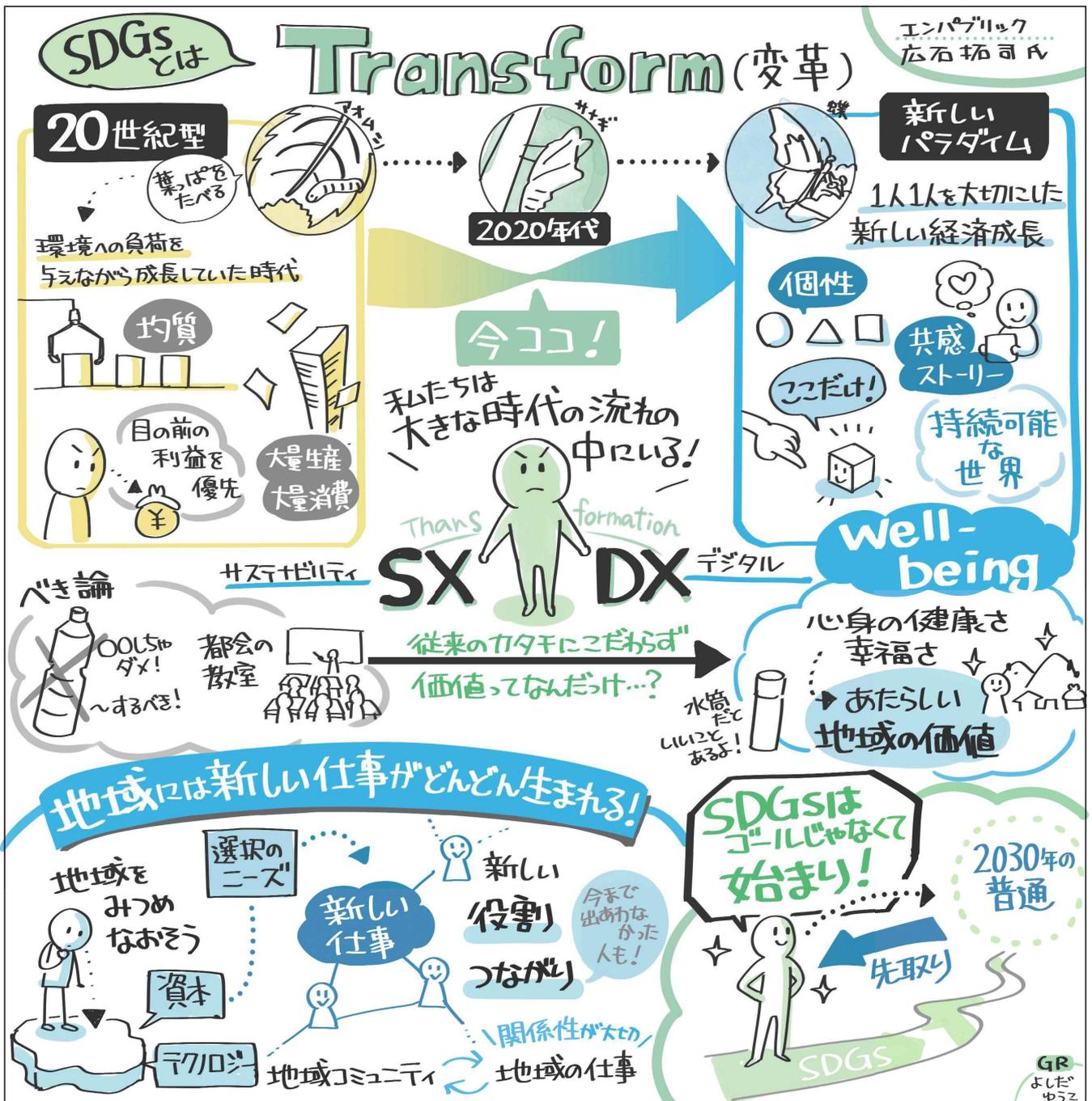
基調講演 SDGsをローカルイノベーションにつなげるために

株式会社エンパブリック代表取締役 広石拓司氏

SDGsとはTransforming our worldを意味します。

「2020年代の重要なキーワードはTransform（変革）。環境へ負荷を与えてきた20世紀型の経済から、個性、共感、持続可能をキーワードとした新しいパラダイムへと変わっていく、混乱ともがきの最中です。COVID-19によって、経済、社会、自然界は別々ではなくウエディングケーキのように重なっていることを世界が体感しました。一緒に考えなければならないのです」（広石氏） そんな中、地域にとっての新しいパラダイムとは何でしょうか？

「地域はこれから新しい仕事生まれるチャンスです！」と、広石氏は話します。これからはWell-being（心身の健康さ、幸福さ）へと価値が変わっていく時代。「新しい価値観から地域を見直し、変化を起こす取り組みをいかに早く始めるかが大切です。さらに、新しい仕事が生み出されるためには企画力だけではなく関係性が重要。つながりを継続して、ニーズと資本を結びつけることによって地域の人々に新しい役割が生まれます」（広石氏） SDGsはゴールではなく始まりです。「SDGs未来都市から、北陸を共生圏のモデル地域にしてほしい」と話されました。



北陸のSDGs未来都市の取組報告

富山県

環日本海地域をリードする 「環境・エネルギー先端県とやま」

立山黒部や富山湾など美しく豊かな自然環境を有する富山県。本県の原点である「水」に焦点を当て、美しい山と海を有し、豊かな水の恵みを活かして持続的な経済発展を実現する県を目指しています。全国初のレジ袋無料配布の廃止をはじめとする県民総参加の環境施策の推進が評価され、未来都市の選定につながりました。SDGs達成の観点を取り入れた各種施策を通じて持続可能な県づくりを進めます。



富山市

SDGs未来都市とやまが実践する パートナーシップ

富山市は2008年の環境未来都市の選定にはじまり、従来より環境価値を高める取り組みに力を入れています。市ではコンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市を計画、実現。公共交通を軸とし、沿線に都市の諸機能を集中させることによって、都市の魅力を高め人口減少のカーブを緩やかにすることを目指しています。



南砺市

エコビレッジとSDGs未来都市

南砺市では2013年にエコビレッジ構想を策定。町内会の小さな集落でその街の資源を活用し、それが広がることにより南砺のまちを作る小さな循環による地域デザインに取り組んできました。土徳文化、小規模多機能自治（地域の自立）南砺幸せ未来基金を柱にまちの魅力を高め、若い世代に南砺市のSDGsの取組をつなげていくことによりSDGs未来都市を実現していきたいと考えています。

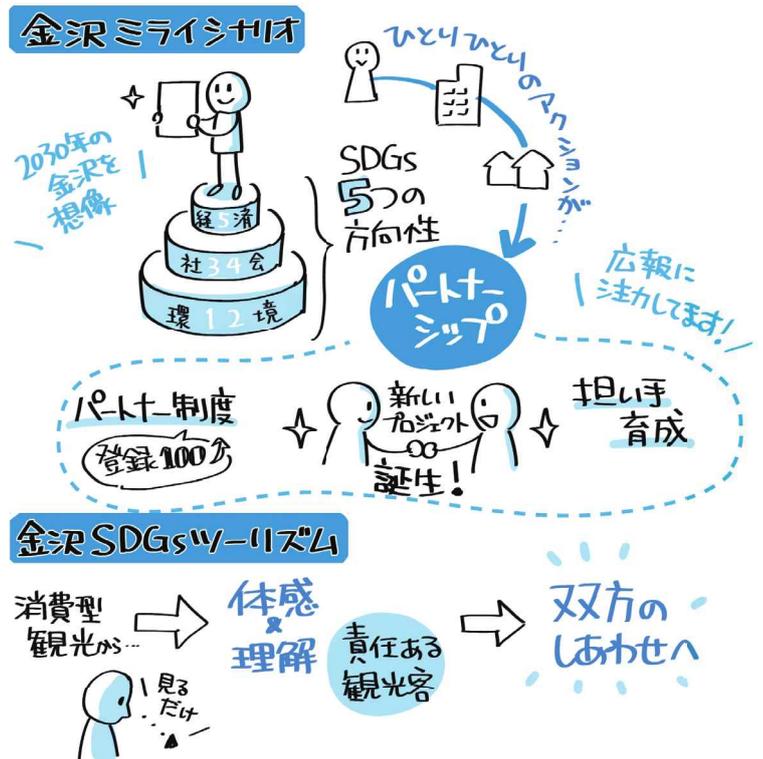


金沢市

世界の交流拠点都市金沢の実現

～市民と来街者が「しあわせ」を共創するまち～

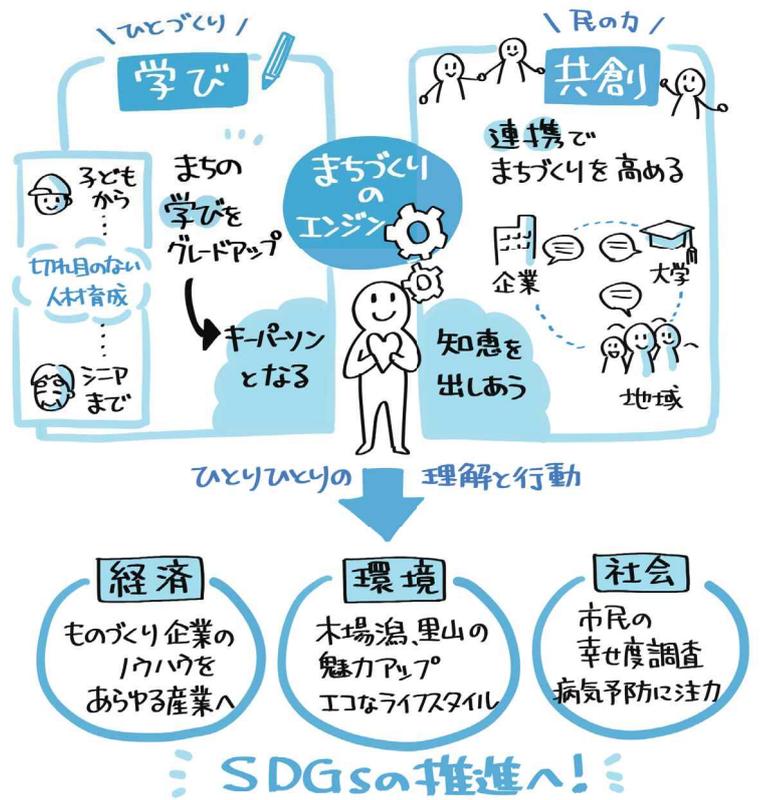
2019年に金沢SDGsを進めるための5つの方向性を発表、2020年には達成への道しるべとして金沢ミライシナリオが完成。パートナーシップでシナリオに描かれた未来の実現を目指しています。また、まちの魅力を磨き高め、責任ある観光客を呼び込む金沢SDGsツーリズムで好循環を生み出し、コロナ収束後の日本のインバウンドモデルを創っていきたいと考えています。



小松市

国際化時代にふるさとを 未来へつなぐ「民の力」と「学びの力」

小松市では時代変化を見据えて、まちの将来ビジョンを作成して、市民と共有してきました。このビジョンからバックキャストで行動計画を定め、SDGsの理念やゴールを予算とリンクさせて政策を実行しています。学びいっぱいのもちへ公立小松大学やこまつ市民大学など学びの機能を高め、多様なパートナーとの連携でまちづくりの政策をレベルアップさせるなど、学びと共創をまちづくりのエンジンに、環境・経済・社会のSDGsの3分野の取組を進めています。



珠洲市

珠洲市の課題とSDGsへの取組

珠洲市は能登半島の先端にあり、市制施行当時より人口が三分の一になるなど人口減少が大きな課題です。社会分野の対策として、能登里山里海マイスタープログラムで金沢大学と協力し、10年以上取り組んできました。中でもSDGsラボでは珠洲市が協定を結ぶ石川県内6大学と連携して大学等の研究・知見を経済活動へ活かし、またサテライトオフィスでは市内、県外企業とのつながりを構築。企業向けの研修プログラムをラボと連携し、広域展開を目指しています。



加賀市

加賀市は、スマートSDGsへ。

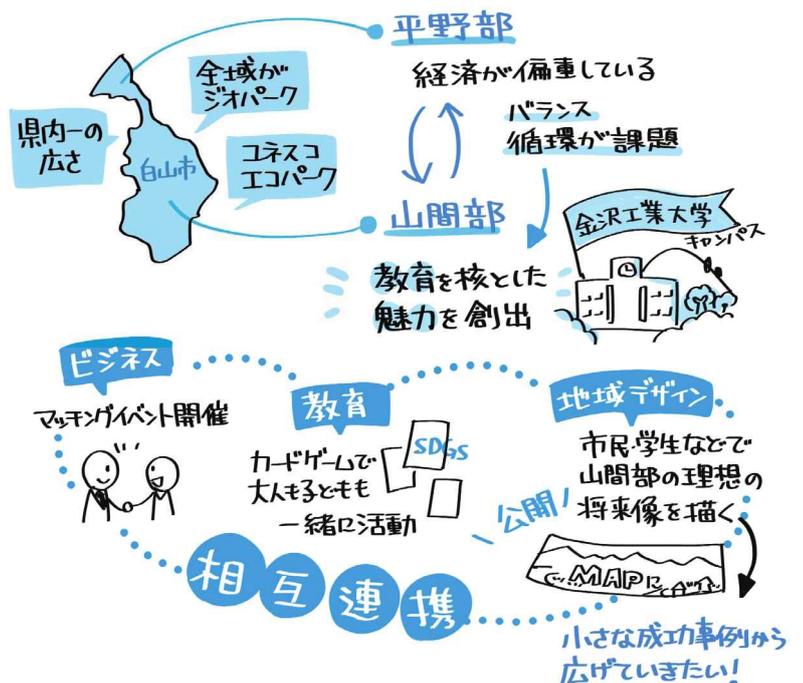
加賀市は3つの温泉を有し、自然、歴史、伝統が息づく田園観光都市です。しかし、人口減少の課題などから“消滅可能性都市”と指摘。先端技術を活用したイノベーションを推進、持続可能な都市へ変革するように取り組んでいます。「市民のQOL」「来訪者の満足度」「稼ぐ力」を柱にスマートシティを促進し、SDGsの3側面をつなげるものとして加賀市SDGsパートナー制度を計画。官民連携と協働により、スマートシティを中心としたSDGsを目指しています。



白山市

白山市と金沢工業大学の連携した取組

白山市は全域がジオパークに認定されている、自然豊かなまち。現在の課題である山間部と平野部の格差を是正し、新たな循環構造を生み出すことが、SDGs未来都市で目指している姿です。金沢工業大学の白山麓キャンパスを拠点にして、将来につなげる人材を教育、育成。山間部で関係人口、交流人口を増やし、教育、地域デザイン、ビジネスの相互連携、さらにジオパークやエコパークとの連携を深めた取り組みを行っていきます。



能美市

持続可能な暮らしやすさを日本一実感できるまち

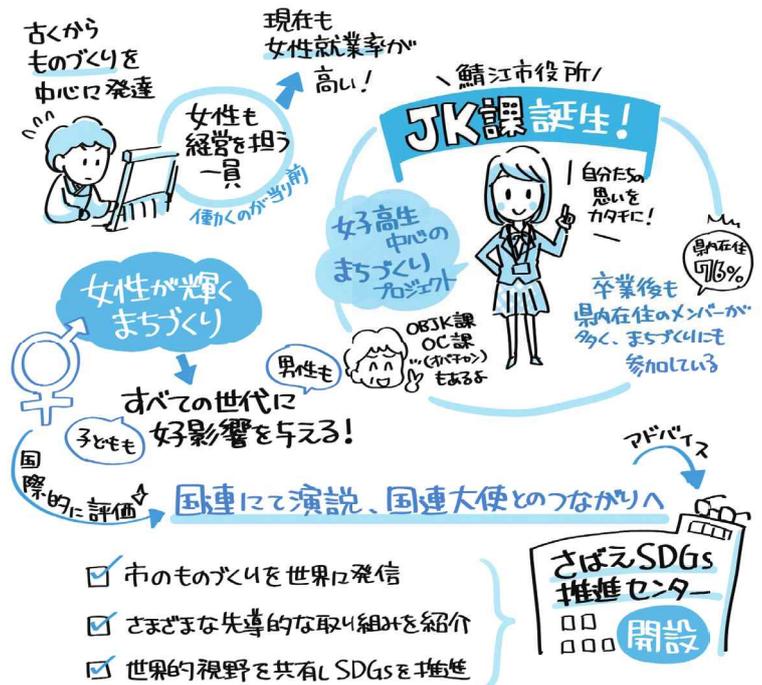
能美市が考える2030年のなりたい姿は「誰もが豊かさを実感できるまち」。能美ならではの「お人柄プロジェクト」において、地域力、市民力を高め、人口減少や少子高齢化などの課題解決につなげていきます。自らが地域の問題を解決し、地域の魅力をつくる力が持続可能なまちづくりには欠かせません。行政、企業、NPOなどの多様な団体と市民の連携の機運が高まれば、まちづくりの大きなエネルギーになると考えています。



鯖江市

女性が輝く「めがねのまちさばえ」 ～女性のエンパワーメントが 地域をエンパワーメントする～

ものづくりのまち鯖江では、古くから女性も経営を担う一員であり、社会の中で活躍してきました。その地域の強みをSDGsにつなげ、ジェンダー平等の実現を軸にした取り組みを展開しています。女性活躍を中心とした取り組みを発信することにより、女性の力がまちづくりにも活かされていることが国際的にも評価されました。国連をはじめ、多様なステークホルダーと連携することで地域に相乗効果を生み、すべての人の笑顔あふれる「めがねのまちさばえ」を目指していきます。





第2部の前半ではグループに分かれて第1部の感想を共有したのち、エンパブリックの広石氏、国連大学 IAS OUIK の永井氏、金沢市インターン生の田中の三者によるトークセッションが行われました。

後半では再びグループに分かれ、下記の5つのテーマに沿って「北陸をどんな地域にしていきたいか」を話し合いました。その内容を、『北陸からのメッセージ』としてまとめました。

-
- テーマ1 SDGs・次代の担い手育成
 - テーマ2 多様な人が活躍できる地域
 - テーマ3 北陸版 SDGs ツーリズム
 - テーマ4 文化や産業を守り、受け継ぎ、活用する地域
 - テーマ5 環境と経済の好循環を生み出す地域

北陸からのメッセージ



はじめに

北陸から、未来へ。

北陸でSDGsに関わっているステークホルダーが集まり、北陸SDGs未来都市フォーラムを開催。未来について話し合いました。日本海に面し山に囲まれたここ北陸では、その豊かな自然環境のもとで、特色ある文化や産業が育まれてきました。一方で、他の地域と同様に、少子高齢化に伴う担い手不足やコミュニティの弱体化などの地域課題の解決や地球規模の気候変動に伴う大規模な自然災害への対応等が求められている地域でもあり、北陸の各ステークホルダーは、誰もがしあわせに住み続けられるまちを目指して、独自の取り組みを行ってきました。

そうした中で、新型コロナウイルス感染症の流行により、ヒトの広域移動が大幅に制限される事態を経験しました。このことにより、私たちは、力を合わせることの重要性、過度に外部に依存するのではなく、地域内でヒト・モノ・コトの好循環を生み出すことの重要性に改めて気が付きました。

私たちは、互いを知り、強みを活かしあい、より大きな力を生み出すことで、この北陸の地から持続可能な世界を実現します。

北陸をこんな地域にしていきたい

既存の枠組みを超えた協働を生み出す地域

そのために...

- 地域や年齢に関係なく気軽に集まることができる分野別の交流会を開催する
- 北陸全体で共通の目標を持った人が集い、何かを始めることができるプラットフォームを形成する

SDGs・次代の担い手育成が進む地域

そのために...

- 地域の課題を知り、興味を持ち、自分ゴトとして実践していくための、SDGs教育のプログラムを開発する
- あらゆる世代を対象とした人づくり体制を充実させ、一貫した学びの場をつくる

多様な人が活躍できる地域

そのために...

- 仕事と子育てを両立できる環境が整い、私生活も充実した多様な働き方を実現する
- 住民が立場の異なる人と交流できる機会を創出し、互いを自然に受け入れ、皆が生活しやすい環境の整備を促進する

北陸版SDGsツーリズムが可能な地域

そのために...

- 市民と観光客の対話を通じて、双方のしあわせを実現する
- 観光を通じた学びの機会の創出など、地球規模の資源を保護しつつ、教育や地域振興に活かす取組を行う

文化や産業を守り、受け継ぎ、活用する地域

そのために...

- 地域の歴史・文化等の学びを通して、地元の人が地域の魅力を再発見し、発信する
- 地域で受け継がれてきたものを守りつつ、多様な人や資源を用い、新しい価値を加えて活かしていく

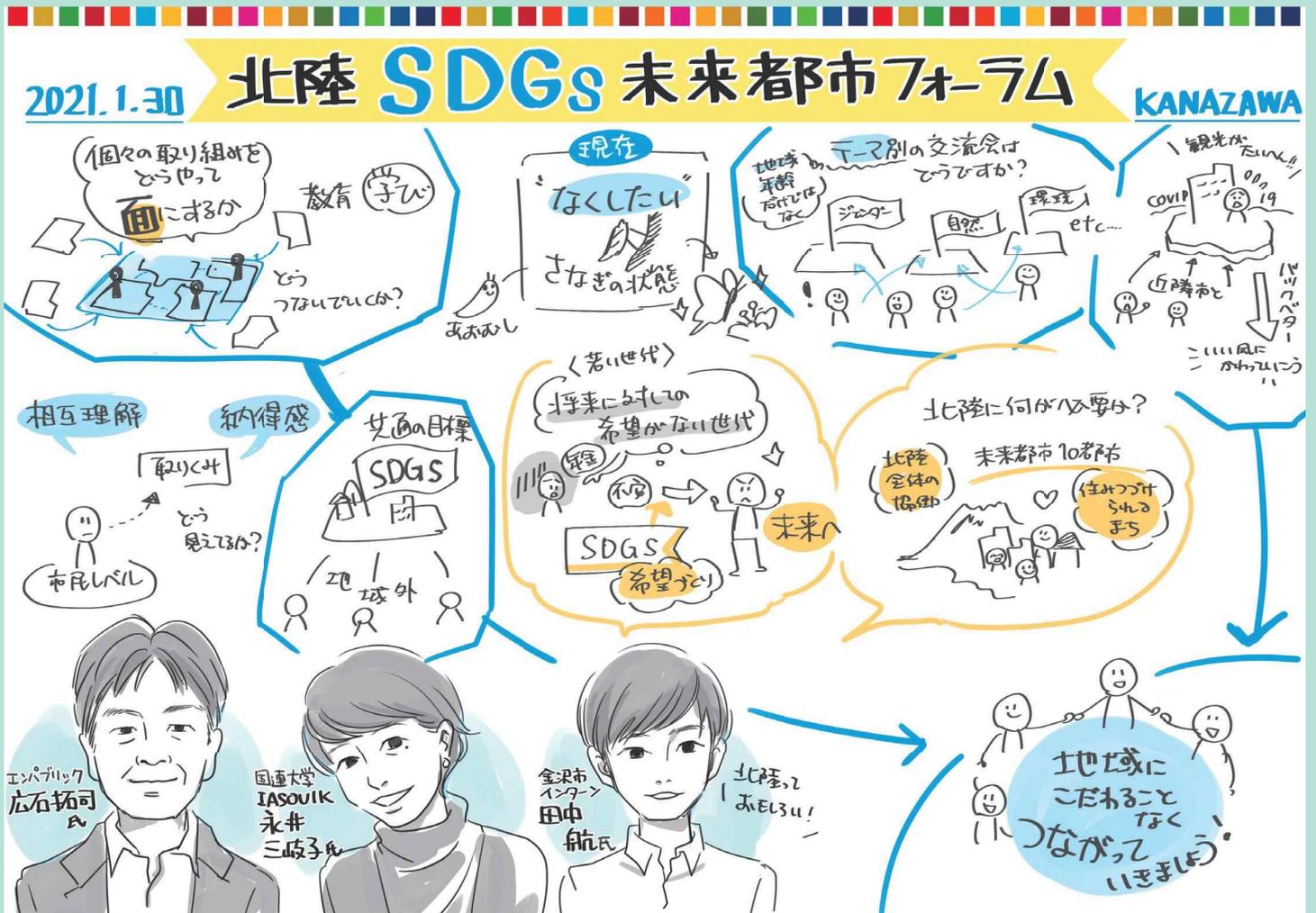
環境と経済の好循環を生み出す地域

そのために...

- 美しい山と海による豊かな水の恵みを活かした地域ブランドを創造する
- 再生可能エネルギーを活用した地域内循環により地域経済を活性化する

トークセッション & グループディスカッション

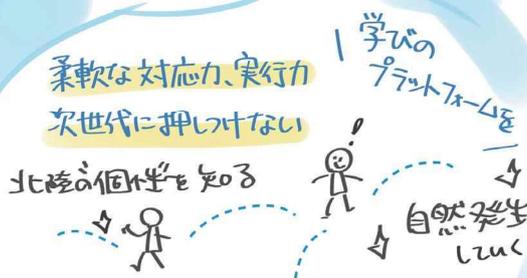
グラフィックレコーディング



これから「北陸として」取り組みたいこと

テーマ1) SDGs 次代の担い手育成

地域の課題を知り興味をもつ
実践する



北陸はSDGsが地元で体験・体感できる!
東京のは遠いよ

テーマ2) 多様な人が活躍できる地域

SDGsとえば「グローバルな視点にたがひから」
地域や自分ごと化を考える



自分ごと化

なかなかとびきりいい!

なんでもの取組をしようの??

「南」にあるものを活かす
北陸にくると感じる

しらすを抜きにしてアイデアを



女性 年40代 LGBT etc.
同じ場所で活躍できる?

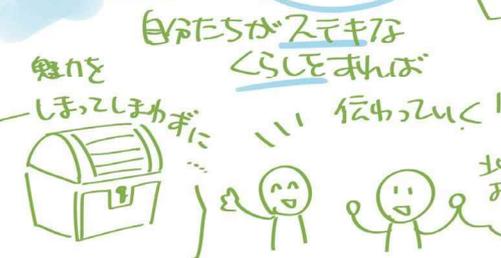
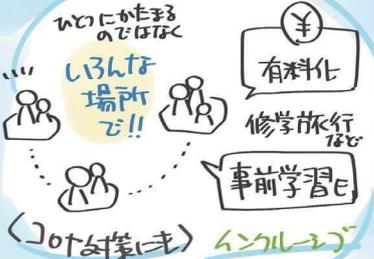
受け入れる 幸せは人それぞれ
「好きこそ 生んでく

閉塞感... 閉塞感の強さ

Give & Give



テーマ3) 北陸版 SDGs ツーリズム



テーマ4) 文化や産業を守り、受け継ぎ、活用する地域

北陸の魅力をどうやって発信・共感



県外 後継者は? 国内 海外 地域を

SDGsのツールの観光客だけじゃなく

古いものをアップデートを!



北陸は含める水たが! 地域にいる人の知的・知識財産を

ゴール設定 宣言

テーマ5) 環境と経済の好循環を生み出す地域

地域の課題を把握する難しさ



パートを見つけるには?

1番いいものをつかつか! 重要
メリット
→ 税制に

身近に循環を感じて



発行

IMAGINE KANAZAWA 2030 推進会議

●お問い合わせ先 **金沢市都市政策局 企画調整課** 〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号 TEL 076-220-2031 FAX 076-264-2535

(2021.2)